

いるかどうか検討する。

- ウ. 相談者がパートナーとの関係に不満な場合、その関係を変えるための援助を行う。たとえば、パートナーに対していつも受動的な役割しかとれない相談者に対して、アサーティブネス・トレーニング（主張訓練）の1部を取り入れ、意識の変容をはかる。またもっと具体的に、パートナーに性交を断ったり、コンドームを使うよううまく説得したりする方法をワーカーを相手にロールプレイする。

4. まとめ

アメリカにおける思春期妊娠に対する相談援助事業は、単発的な試行段階をすでに過ぎ、かなり発展・整備されている。また、同時にそこでの具体的な相談援助技法についても、研究が進んでお

り、洗練されているという印象を受けた。一方、日本では、思春期妊娠は社会問題として認識されてきているにもかかわらず、具体的な相談援助機関も少なく、相談技法についても、科学的研究のテーマとして取り上げられていないように思われる。そこで、今回報告した家族計画クリニックでの相談事例を1つのモデルとして日本に導入するとした場合、社会的環境の異なる日本では、どんな問題点が発生すると考えられるか。問題の領域を概説する。

- (1) 妊娠にかかわる自己決定過程に親を介入させるかどうか。
- (2) 生育の過程で自己決定の経験がない相談者は決定の際、ワーカーなどへの依存がおこるのではないか。
- (3) 医療、教育、相談など各々の専門領域のきめ細かい協力関係をどの程度つくり上げられるか。(同一機関内でもよいし、各々違う機関に所属したままでもよい。)

資料 ②

ピア・カウンセラーの養成とカウンセリング事業

1. ねらい

思春期の子ども達の悩み相談の相手としては、「友人」や「先輩」が選ばれる可能性が高く、アメリカなどでは、このような考え方に基づいたピア（仲間）カウンセラーの養成と彼らによるカウンセリング事業が効果を挙げている。本事業では、これら先進国の例にならい、思春期の子ども達の抱える主として、男女交際、セックス、妊娠、出産、避妊、エイズをふくむSTDなどの諸問題に対処するため、カウンセラーの養成とカウンセリング事業の推進を図るものである。

2. 事業の概要

①ピア・カウンセラーの養成

- ・養成すべきカウンセラーとしては、思春期年齢に近い、医系・福祉系大学の学生を対象にカウンセラーを希望する者とする。
- ・養成講座は放課後あるいは学校休日に開催し、カウンセラーとして適格と認められた者については、ボランティアとして職務規定に則って活動する。
- ・カウンセラーの養成は（社）日本家族計画協会に委託する。

②ピア・カウンセリングとは

- ・ピア・カウンセリングは一般に1対1関係ではなく、カウンセラー複数対1、複数対複数関係で行う。

- ・思春期の子ども達の抱える諸問題、例えば男女交際、セックス、妊娠、避妊、中絶、出産、エイズを含むSTDなどをテーマに、彼らの目の高さになのできるだけ近い立場での相談に応じようとするものである。
- ・時には、カウンセラーによる即興劇団などを構成し、知識の普及と啓発に努める。
- ・カウンセラーの活躍の場としては、健全母性育成事業、思春期における保健福祉体験学習事業、思春期教室、思春期クリニックなど厚生行政の場や、学校、公民館などの場が考えられる。アメリカなどでは、思春期の子ども達の集まりやすい場所、例えばリゾート地やディスコ、ゲームセンターなどもターゲットにしているが、わが国では一考を要する。

3. 事業実施に伴うスタッフ

- ・医師：産婦人科医、精神科医、泌尿器科医
- ・教師、カウンセラー
- ・助産婦、保健婦、看護婦などピア・カウンセラーの助言に当たる専門相談員
- ・事務系職員
- ・その他

4. 事業実施に必要な施設と経費

- ・研修室
- ・研修に必要と思われる機器
- ・電話相談室と受信機2台
- ・カウンセラー管理、相談者データベース作成のためのパソコン
- ・人件費
- ・その他



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



1.ねらい

思春期の子ども達の悩み相談の相手としては、「友人」や「先輩」が選ばれる可能性が高く、アメリカなどでは、このような考え方に基づいたピア(仲間)カウンセラーの養成と彼らによるカウンセリング事業が効果を挙げている。本事業では、これら先進国の例にならい、思春期の子ども達の抱える主として、男女交際、セックス、妊娠、出産、避妊、エイズをふくむ STD などの諸問題に対処するため、カウンセラーの養成とカウンセリング事業の推進を図るものである。